

No.83

桜堤二丁目
にて

この街が好きだから

武蔵野スケッチ物語

絵と文・大須賀一雄

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。



この作品は、昨年4月に満開の桜をめながら描いたものである。ところで、昨年10月にポーランドのワルシャワで行われたショパン国際ピアノコンクールで2人の日本人が上位に入賞して話題となった。ショパンとは全く無縁な私だが、欧州を中心に演奏活動をしている知人がいる。彼女の名前は海老彰子さんといい、出会いがユニークだったので紹介したい。私が30代の頃、仕事の関係でニライ学院の夜間部でロシア語を学んでいたことがあった。その時同じクラスに中学生の海老さんがいて、家でピアノとフランス語を学んでいると聞き、すごい人がいるなと思った。

約10年前に、偶然NHKの番組に、彼女がピアノコンクールの審査員として出演しているのを見て、それがきっかけで交流が復活した。昨年末に彼女から届いた手紙で、前述のショパンコンクールで彼女が審査員として参加していたのだと知り、今回紹介させていただいた次第である。

おおす かかずお
大須賀一雄

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。